

学年	教科等	題材名	日時
第5学年	家庭科	針と糸をつかって	平成30年7月3日(火)5校時
本時における「深い学び」	<p>「深い学び」を実現するためには、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、問題解決的なプロセスを大事にした家庭科学習を展開することが重要であると考えます。</p> <p>そこで本実践では、生活を見つめ、解決したい課題をもつ学習指導の在り方を追究する。小物入れを製作するなかで生じた「丈夫に縫えない」という仲間の悩みを基に、「丈夫さ」を視点にして共通した課題をもてるようにする。また、丈夫に縫うための解決方法のなかで、子どもが考えたと予想される「縫い目の大きさ」を取り上げ、縫い目の大きさについて焦点化して考えることができるようにする。</p> <p>次に、学びと生活をつなぐ学習指導の在り方についても追究する。「丈夫に縫うためには、縫い目の大きさを考えて縫う必要がある」ということを視点として、自分の製作している小物を見つめ直させる。そうすることで、これまでの学習をふまえ、より丈夫に縫うための改善点を見付けたり、新たな課題に気付いたりすることができるようにしていきたい。</p>		

生活を見つめ、解決したい課題をもつ学習指導の在り方

仲間の悩み「丈夫に縫えない」

「丈夫に縫うためには、どうすればよいだろうか」



- ・返し縫いをすればよい。
- ・玉どめをしっかりとする。
- ・糸を2本にする。
- ・縫い目を小さくする。

「縫い目の大きい物と、小さい物では、丈夫さに違いはあるのだろうか」



縫い目の大きい物と小さい物を作って、引っ張って調べよう。



縫い目の大きい物は、すぐ糸が取れちゃうよ。小さい物の方が丈夫だね。

学びと生活をつなぐ学習指導の在り方

自分の小物入れを見つめ直してみよう



ぼくの小物入れは、縫い目が大きくて、引っ張ると糸が取れそうだ。もっと縫い目を小さくしたいな。

仲間の悩み「丈夫に縫えない」から生じた「丈夫に縫うにはどうしたらよいか」という問いに対して、様々な解決方法について意見を出し合う姿が見られた。しかし、そこから縫い目の大きさへ子どもたちの問題意識をもっていくことが難しかった。子どもが何に悩んでいるのか丁寧に見取ってから、全体で課題を共有させる必要がある。また、資料の提示の仕方や発問の仕方等についても探る必要がある。さらに、題材のなかで、子どもに何を教え、何を追究させていくのかを教師がデザインして授業を創っていくことの大切さも改めて分かった。子どもの実態を踏まえながら、どのような問いをもたせ、題材を構成していくか、今後も追究していきたい。

今後の課題

- 子どもの思いに寄り添った題材構成の在り方
- 子どもの思いをつなぎ、共有化するための資料提示や発問の在り方

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

授業実践計画

○ 指導計画 (10 時間)

- (1) 身の回りの布製品について話し合う。————— 1 時間
- (2) 玉どめ、玉結び、簡単な縫い方を調べ、試し縫いをする。————— 3 時間
- (3) 生活に役立つ小物を製作する。————— 5 時間
 - ・ 小物入れ製作の計画を立てる。…………… 1
 - ・ 課題を見付け、解決方法を探る。…………… 2 (本時 2 / 2)
 - ・ 分かったことを基に、小物入れを仕上げる。…………… 2
- (4) 小物を使ってみたよさを紹介し合う。————— 1 時間

○ 本時の目標

小物を丈夫にするためには、縫い目の大きさが大切だということを理解し、自分の小物製作に生かすことができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
1 本時学習について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 仲間の悩み 「丈夫に縫えない」 ○ 丈夫に縫うためには <ul style="list-style-type: none"> ・ 縫い目を小さくすればよい。 ・ 糸をぎゅっと引っ張ってきつくする。 ・ 玉どめを布にぴったり合わせる。 ○ 本時の学習問題 ぬい目の大きいものと、小さいものでは、じょうぶさにちがいはあるのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「丈夫に縫えない」という仲間の悩みとともに、小物入れを提示することで、全員が「丈夫さ」を視点にして共通した課題をもてるようにする。 ○ 丈夫に縫うための方法を話し合うなかで子どもから出てきた「縫い目の大きさ」を取り上げる。「縫い目の大きい物と小さい物では、丈夫さに違いはあるのだろうか」と問い、丈夫な縫い方について、縫い目の大きさに焦点化して考えることができるようにする。
2 丈夫さを確かめる実験をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 縫い目の大きい物と小さい物 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ペアで、縫い目の大きい物と小さい物を縫い、それぞれの物を手で引っ張って確かめさせることで、縫い目の大きさにより、丈夫さが違うことを実感できるようにする。
3 調べて気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 気付いたこと <ul style="list-style-type: none"> ・ 縫い目の大きい物は、引っ張ると糸がゆるむ。 ・ 縫い目の小さい物は、少し引っ張っても、変わらない。 ・ 縫い目の小さい物は、すき間がなく、中身が出てくる心配がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「引っ張って気付いたことはないか」と問い、全体で話し合わせることで、縫い目を小さくした方が、すき間がなく丈夫になることや、縫い目が大きいと糸がゆるみやすいことに気付くことができるようにする。
4 丈夫に縫うためのポイントについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 丈夫に縫うためのポイント <ul style="list-style-type: none"> ・ 縫い目を小さくする。 ・ 小さすぎると、布が傷み、丈夫でない場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「縫い目は、小さくすればするほどよいか」と問い、縫い目がとても小さい物を提示することで、あまり小さく縫いすぎると、布が傷み、かえって丈夫さが損なわれることに気付くことができるようにする。
5 自分の製作している小物入れを見つめ直す。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 縫い目の大きさ ○ 玉どめの仕方 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習で分かったことを基に、自分の製作している小物入れを見つめ直すことで、丈夫に縫うための改善点を見付けたり、新たな課題に気付いたりすることができるようにする。

○ めざす子どもの姿

自分の小物を製作する時に、丈夫さについてあまり考えたことがなかったな。縫い目の小さい物の方が、丈夫になると分かったよ。自分の小物を見てみると、縫い目が大きいから、今より小さくして、丈夫で使える小物にしたいな。

【思考・判断・表現】

